

令和元年度 学校自己評価システムシート(山口学院 埼玉平成高等学校)

目指す学校像(ミッション)	進路実現に必要な学力や知識、厳しい社会を生き抜く資質や能力を身につけさせる
本年度の重点目標	1 AI時代に生き抜く力を育てる 2 「主体的・対話的・深い学び」への教育基軸のパラダイムシフトの実施 3 挨拶や礼儀をはじめとする基本的な生活習慣と思いやりの心を育む 4 一人ひとりの生徒に高い志(夢)を持たせ高い学力や教養を身につけさせる 5 より快適な教育環境づくりを推進する 6 募集定員確保及び質の高い生徒の獲得を目指す 7 健全なる学校運営を行う

評価	達成度
A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	改善の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 2 0 日 現 在)		年 度 評 価 (2 月 2 0 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	論理的なディベートやプレゼンテーションが充分にできる能力を身につけさせることを全校をあげて取り組む ・しっかりと自己表現を身につけている生徒が少ない	次世代が求める人物像	<ul style="list-style-type: none"> 日本語で表現できる能力を高める為に対策授業を実施して日本語検定を全員で受検 英語力を高める為に対策授業を実施して英語検定を全員で受検 毎週漢字・英単語テストを実施 授業での積極的な発言を促す指導 ポトフォリオ(今来手帳)の作成を通して、論理的に文章を組立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 各検定の合格者数 外部模擬試験の結果確認 今来手帳の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定は2級に3名、準2級に17名、3級に64名合格した 3年生の3級以上取得率は53%であり、全校生徒の英検級取得率は71%であった。 ポトフォリオの作成を通して、言葉の大切さを意識させるとともに文章の組み立てが徐々にではあるが、できるようになって来た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年間で個々の目標とする級に一人でも多く到達するように指導を徹底する 検定対策の授業を一層充実させる 生徒の積極的な意見や考えを促す機会を多く設定していく 	実施日:令和2年2月29日 学校関係者からの意見・要望・評価等 ・英語検定受験は入試に役立つものもあるが、しっかりと英語力を身につける教育は生徒の将来につながる。今後も継続してお願いしたい ・次年度の課題として「生徒とのコミュニケーションを大切に」を伝えて欲しい ・目標とする級に一人でも多く到達できる指導を一人ひとりに取り、取得率を80%以上を望む
2	特別選抜コース 特別進学コースⅠ 特別進学コースⅡ 進学コース それぞれのコースに適した授業法を開発して授業力を向上させる	教育基軸のパラダイムシフトの成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領対応の授業の見直し ・全教員参加型の教員研修会を実施し、資質向上に努める ・模擬授業(研究授業)の実施 ・教科別の研究・研修会の実施 ・コース制の充実と授業時数確保 ・入学予定者の学習指導の実施 ・入学手続き後中学後進学習の課題を配付 ・確認用の到達度テストを実施 ・再度で、スクアの確認課題を配付 ・入学後確認テストを実施 ・修習学習時間の確保 ・学習支援センターの活用 ・機関時間の活用(1日2時間を推奨) ・ラーニングシステムの活用 ・スタディサプリの利用 ・朝食を摂らせる食育指導 ・能動的授業の推進 ・アクティブラーニングの実践 ・「感動」、「知的好奇心」を育てる指導 ・科学的視野を広げ論理的な思考を育てるために校外施設を活用 ・ICT教育の研究 ・公開授業(保護者・受験生対象)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での自学時間が増加したかアンケート調査で確認 ・教員が授業力向上に努めているか教員自己評価シートを実施 ・生徒が授業に満足しているかCS度チェックシートの実施 ・各コース毎のデータに基づき伸長状況を把握 ・外部施設での調べ学習の成果をオープンスクールで研究発表を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に全員参加型の教員研修会を実施し、新学習指導要領への対応準備や大学共通テストの分析・研究を行った ・各教科で授業法の研究が行われ、教員研修会で能動的学習の実践例として模擬授業を体験した ・入学手続き後に宿題を課して継続的な学習を促した ・4月12日実施のスタディサポートに向けて「宿題を配付し、学習の習慣化を課した」 ・「科学ふしぎ調べ隊」の活動として、筑波宇宙センターで調べ学習を行い、オープンスクールでプレゼンテーションを行った ・家庭学習時間の確保として機関時間の利用の一つとして学習支援センターを開業して利用の呼びかけをしている 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対して早い時期に入校後の準備を行わせて不安を払拭する ・授業力向上に向けての教科研究研究会を継続的に開催する ・対話型授業、協同学習等のアクティブラーニングを活用した生徒参加型の授業研究を継続して行う ・12月12日実施のスタディサポートを各教科で継続して行う ・知的好奇心を育てる企画を立案する ・学習支援センターの活用による学習習慣の定着化を実現させていく 	・「科学ふしぎ調べ隊」の活動を通してオープンスクールでのプレゼン、在校生の経験にたいにプラスになるのを継続して欲しい ・学習支援センターの開設は、今後は生徒のために継続して欲しい ・全員参加型の教員研修会は高く評価できる。今後は校外の研修に順次参加してはどうか ・ICT教員は待機を見据えて活用準備をお願いしたい。生徒はスマホ世代だから直ぐに活用できると思う
3	校訓の「創造」「自律」「親切」をより具現化するため、目指すべき生徒像を「熱心心」を持ち、「思いやり」のある生徒と設定し、指導を徹底する	生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・純粋(Purity)、礼儀(Politeness)、時間厳守(Punctuality)の3P主義を生徒指導の柱として指導 ・思いやりの心を育成 ・失敗から学ぶ姿勢の育成 ・言葉遣いやマナー指導の徹底 ・個々が主役となれる場の設定 ・公共交通機関・公共の場でのマナー向上 ・教育相談の充実 ・心理カウンセリングの有効利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および保護者が生活習慣の確立及び向上を実感できたか ・教師と生徒と保護者の信頼関係が築けているか ・学校に寄せられる苦情への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームや学年集会等で、基本的な生活習慣や人権についての指導を行った ・SNSによる誹謗中傷発生予防として外部より講師を招き、全体への指導を徹底した ・挨拶の励行に関して改善すべき点がある ・教育相談への評価が向上しているアンケート結果が出た 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を一過性にせず継続して指導を行う ・挨拶は教員自らが積極的にを行い、お手本となる ・SNSに関する諸問題が大きな問題に発展しないよう日頃からの指導を徹底する ・安全教室を通して、通学時の交通事故0件を実現する 	・埼玉平成高校の生徒が以前に比べて挨拶ができる生徒が少なくなっているように感じる。教員から挨拶をして見本になって欲しい ・企業に例えれば、上司と部下のコミュニケーションが良くなることで信頼関係が生まれ業績が伸びる。これは学校の教員と生徒の関係も同じだと考える
4	生徒個々の進路目標を実現するため、補講・補習を一層充実し、より高い進路目標を掲げるよう指導する	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次より第1進路希望実現への意識づけ ・国公立・私立難関大学希望者を増やす ・安易な学校選びをさせない指導 ・補習・補講の充実 ・学習支援センターの有効活用 ・場面を活用したきめ細かい指導 ・進路指導室からの情報発信の拡充 ・各ガイダンスや講演会から進路目標実現に向けての徹底指導 ・夏期休業中サマーセミナー(1・2年)とセンター合宿(3年生)の充実 ・国家・地方公務員試験対策指導の充実 ・高大連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・評年次の進路実績を上回る数字か ・補習や補講が充実したか ・進路希望調査で難関大学の希望者が増加したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター入試利用者が136名であった ・進路実績を基に指導を行った ・模擬テストの結果を分析して、きめ細かい指導に役立てた ・入試改革に備え、1年生より随時ポトフォリオの導入を行っている ・保護者対象の都内大学見学ツアーを企画して実施した ・1学年補講や補習の拡充を図った ・サマーセミナーやセンター合宿の内容を検査し、より効果の高い手法を研究し、来年度の合宿に備える ・進路の目をより具体化して、1年は職業調査、2年生は進路目標設定に役立つ企画を立案して実施した 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験はコースの特性に合わせたものを実施し、事後指導を一層充実させる ・サマーセミナーやセンター合宿での成果を検証し、より効果の高い手法を確立する ・保護者参加型の進路の日を企画する 	・入試改革の大学共通テストが不透明である。不安な保護者・生徒への対応を丁寧に行いたい ・年内合格決定後の申込みは補講の充実や学習支援センター利用を多く強制的でもめて欲しい ・保護者を巻き込んだ進路指導で大学見学ツアー等は、今後メール配信を活用することで参加者が増えることに期待したい
5	学習環境の改善に取り組み、情報教育を充実させ、校内の教育環境の充実を目指す	更なる快適な教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の環境整備 ・実化意識を高める指導 ・一流、本物に触れさせる機会 ・文楽鑑賞教室(希望者) ・茶道体験教室(第3学年全員) ・歌舞伎鑑賞教室(第3学年全員) ・芸術鑑賞会(全校生徒) ・情報教育としてゼロ・マガタの版画を校内に展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および保護者へ校内環境への満足度をアンケートで確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者が増えている ・校内の清掃等から美化意識を高める指導をホームルーム単位から行っている ・芸術鑑賞会は「音楽」で、原田幸一郎氏指揮のもとIMAエンバナーアンサンブルをお招きして一流の演奏者の奏でる弦楽合奏を鑑賞した ・情報教育の一環として行った版画や色紙の掲示をしている 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で調べ学習が行えるように整備を行う ・校内の美化意識を高める指導を行う ・一流の物に触れさせる機会を設ける(来年度は演劇) 	・芸術鑑賞会は、他校にない経験ができていると思う。今後も生徒へ一流のものを触れさせて欲しい ・図書館の環境整備は、生徒のニーズに合ったものにする事で更なる利用向上につながると思う
6	生徒募集活動を活発に展開し、質の高い生徒の入学を目指す	意欲のある生徒を募集	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員で中学校、塾訪問を実施 ・説明会で本校の教育内容や元気の学校づくりをアピール ・中学校へ講演会や出前授業の講師を派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者数は増加したか ・過去年度の入学者の地域や特徴を分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員で塾や中学校を訪問し、本校の教育活動を広めた ・受験者数が昨年度と比較して144%増となった ・広報活動を積極的に展開して本校の知名度を上げた ・中学校からの講演依頼(模擬授業含む)を受け、本校の周知に努めた 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校や塾との要望を来年度の募集に役立てる ・入試システムを点検して、より受験者数の増加につながるよう改善していく 	・ホームページのリニューアルとリアルタイム化に加え、ネット出願等の相乗効果が表れたと思う。これからの受験には必要不可欠であり、新聞のチラシについても目に入る情報としても有効だと思う ・引き続きの広報活動と教育方針の継続に期待する
7	教員一人ひとりの適性を活かした組織づくりを行い、明るく職場環境を目指す	組織の円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントに関する意識を高める ・対生徒への人権を尊重する ・対教員への人権を尊重する ・職員室を整理整頓し、明るく会話のし易い環境をつくる ・新任の採用を順次行う ・新任研修会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権は守られているか ・研修会は充実しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長より年度当初に「グランドデザイン」を示した中で、人権を守るよう指示があった ・働き方改革として有休の取得を教員に呼び掛け、5日以上取得させた 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員個々が更なる資質向上に努める ・生徒への接し方に関する研修機会を設ける ・教員自身の健康増進に関する研修会を設ける 	・教員の福利厚生の上には、質の高い人材が増えることだと思う ・先方は本校の宝だ。健康増進、健康増進に努めて欲しい ・定期的な教員・生徒向けにCAEDの講習会を行って欲しい ・年5日と言わずに10日以上休暇が取得できる体制を望む